


同窓会報

An aerial photograph of a university campus. The image shows several large, multi-story buildings, likely lecture halls or administrative buildings, arranged in a cluster. There are several parking lots with many cars parked. The campus is surrounded by fields and some residential areas. The title '同窓会報' is overlaid in large white characters at the top.

第 3 号
60.12.15

豊橋技術科学大学同窓会

同窓会会員の皆様へ

豊橋技術科学大学学長 本 多 波 雄

本学の設立以来、初代学長として大学の基礎固めとそれに続く発展に指導的役割を果たしてこられた榊米一郎先生が、本年3月末、任期満了のゆえをもって退官され、その後をうけて、私が4月1日より2代学長の重責を担うこととなりました。浅学非才の身ではありますが、本学の新たな飛躍を目指して全力を尽す所存でございますので、同窓会会員の皆様の倍旧の御支援をお願い致します。なお、副学長には前岐阜工業高等専門学校長 古屋善正先生と、学内から前分析・計測センター長 佐々木慎一先生を迎えて、力強い御援助をいただいております。

最近、教育改革の問題が社会的論議を呼び、政府も臨時教育審議会を設置して真剣に取り組もうとしています。そこで取り上げられると予想される一つの重要な問題は教育の多様化であります。従来、日本の大学はいずれも画一的な制度の下で、似たような教育課程を編成しており、それに入学試験に伴う弊害が重なって、いわゆる大学の序列化、学生の輪切り現象が急激に進行しています。しかし、学生の資質は多様であり、一元的な順序付けができるものではないので、内容的にはもとより、制度的にも特徴を持ったいろいろな大学があり、学生は自分に適したところに進学できることが望ましいのであります。

新しい型の指導的技術者を養成するにふさわしい制度として、主として高等専門学校卒業者を3年次に編入学させ、高等学校から1年次に入学した学生とともに、学部課程と修士課程を結んだ一貫教育を施こそうという技術科学大学の創設は、大学の複線化をはじめて実現したものであります。したがって、技術科学大学への社会的評価はわが国の教育制度の多様化を占う試金石であるといえます。

本学は創設から日が浅く、大学院で3回、学部で6回の卒業生を送り出しているに過ぎません。さらに入学者について言えば、年間の大学工学部関係入学者8万余人（そのうち国立大学3.3万人）に比べて、高等専門学校の入学者約1万人、技術科学大学入学者600人は余りにも少なく、そのため世間的な知名度はまだ必ずしも高いとはいえません。しかし、技術科学大学を知る人々からの評価は

高く、期待も大きいものがあります。

本年10月17日、中曽根総理大臣は東海地区への内遊に際して、特に本学を視察され、施設見学のほか、教官との懇談、学生との懇談の機会を持たれました。懇談会の席上、総理は教育の多様化を進めるにあたって、本学の視察が非常に参考になった旨感謝されるとともに、高等専門学校・技術科学大学という路線の現状を高く評価し、今後ともこれを拡大・充実する必要のあることを強調されました。

次代を担う技術者の養成と、それに対応する多様化された教育制度の充実は時代の要請であり、本学はその先導的役割を果たすという責務と期待を担っています。そのためには、本学の研究・教育の内容を益々充実させてゆかねばなりません。その第1の課題は大学院博士課程の設置であります。高等教育の中で技術科学大学を中核とする新しい路線が、従来の大学・大学院に比肩しうる、あるいはそれを凌駕する地歩を築くためには、その最終コースとして独自の博士課程を持つことは不可欠の要件であるといえます。幸いにして、中曽根総理大臣が、学生との懇談会の席で、本学に博士課程の設置されてしかるべき旨を言明されたのをはじめ、関係方面の理解も高まってきており、近い将来にその設置をみるべく期待を込めて努力しているところであります。

最後に、卒業生の就職状況について簡単に触れたいと思います。本学卒業生に対する求人希望は極めて多く、昭和58年度卒業生でいうと、平均で15倍以上、課程によっては30倍を超えるところもありました。昭和59年度卒業生については、さらにこれを上まわる状況にあります。このように本学卒業生に対する期待が大きいのは、主として同窓会会員の方々の社会的活動が高い評価を得ていることによるものであり、私どもにとってまことに心強い限りであります。本学教職員を代表して皆様の御活躍に敬意を表しますとともに、今後の一層の御発展を期待して私の御挨拶といたします。 (59.7.記)



学内近況報告

同窓会役員より

早いもので、豊橋技術科学大学が卒業生を世に送り出して6年になります。同窓会会員の皆様の御活躍により我技科大も、少しづつではありますが、内外から高い評価を受けるようになりました。「豊橋技科大なんて国立大学があったんですか？」などという不愉快な質問は、最近では聞かれたことがないのではありませんか？今年度を振りかえって、私達技科大の卒業生にとって嬉しいニュースが二つありましたので御報告致します。何れも、新聞等で報道されているので御存知の方も多いと思いますが、良い話は何度聞いても良いものです。

まずはじめは、前豊橋技術科学大学学長、榊米一郎先生が秋の叙勲で勲二等旭日章を受けられたことです。新構想大学として開学した技術大の生みの親、育ての親として「教育は人づくり」に身をもって貢献されたことに対して受賞されたものです。

もうひとつのニュースは、中曽根首相が技科大を視察に来たことです。昭和59年10月17日、首相は大型ヘリで到着し、技術開発センター、微粉炭燃焼基礎実験室、集積回路実験室等を見学しました。学生代表との懇談会の中では、「博士課程が欲しい」という質問に対して、「当然できるでしょう」と述べ、博士課程の新設に理解を示しました。次の訪問先のトヨタ自動車高岡工場での記者会見の中で、「豊橋技科大は新構想のすばらしい大学で、学生も粒ぞろいだと思った。これからも日本をしょって立つ多様性のある大学だと思った。」等、公的な意見であったにせよ、技科大の良さを十分に認識されたようです。

この二つのニュースから察せられるように、我技科大も大きな評価をいただき得つつあります。これも偏に、技科大を巣立たれた皆様の御活躍に寄るところが大きいと思います。今後も、技術大の門をくぐったことを誉りにもち、社会に貢献されることを心からお祈りします。

エネルギー工学系

講師 北村健三

同窓会報の創刊号(昭和57年11月)が発行されてから早や3年近く経過しました。そこで最近のエネルギー工学系の卒業生および教官の動きを中心にお知らせします。まず一期生の第2回同窓会が昨年10月20日にホリディン豊橋にて開催されました。当日は卒業生が20名近く、また教官も10名近く出席し盛会でした。一期生に負けず二期以降の方々も是非同窓会を計画して下さい。教官の動きですが、昭和59年3月に、齊藤先生が退官されました。また同年9月にチェコからシャトラ先生が本学へ一年間の予定で赴任されました。昭和60年4月に森下先生が技開センターから赴任されました。また昭和60年3月一杯で村上先生の併任が切れ、名大へお戻りになりました。昭和60年5月に高豊(昇)が勲二等瑞宝賞を叙勲されました。

生産システム工学系

森永正彦

新しい工学と教育を求めて創立された生産システム工学系も、早や、8年になろうとしています。この間、系の卒業生は修士130名(留学生2名を含む)と学部259名を教えています。

昭和57年3月に、修士の第1期生が巣立った後の系の教職員の移動を紹介します。本学の創設に大きな貢献をなされた西成基副学長、長岡振吉教授、永井直記教授の3先生がご退官になりました。この先生方については、卒業生もいろいろな思い出をお持ちのことと存じますが、ご退官後もご壮健で益々ご活躍されています。

ご着任の先生方は、小林俊郎教授(鑄造材料学ご担当)、岡根功教授(接合加工学ご担当)、村田純教授助手(機械材料講座)、寺嶋一彦助手(工程制御講座)、森田啓義助手(材料加工システム講座)、福本

昌宏助手(接合加工講座)です。また本学の卒業生でもある江崎尚和、中田好彦両教務員、そして白井宏始、椿正巳両技官も大変活躍しています。系の事務担当では、後藤元洋さんが服部修幸さん(現在学生課)の後にこられています。

系および関連のセンターの設備も増強され、また施設も増えています。例えば、学内に工作センターとその実験実習工場が建てられ、現在、坂野系長がセンター長を兼任されています。上田、村松両技官が今まで通り、機械工作の面倒を見ておられます。

系の先生方の研究も活発で、関連の学会で多くの成果を発表されているのは御承知だろうと思います。国際交流も盛んで、先生方の海外出張も多く、また毎年2~4名の留学生が系にいます。また昨年、「新素材とメカトロ」と題して、2系の公開講座が開かれ、聴講者も多く大変好評でした。

在學生は、早朝野球や新入生歓迎ソフトボールなどで身体を鍛えて、勉強と運動を両立(?)させているようです。学内の教職員のソフトボール大会で、今年は2系が優勝しました。

卒業生の諸氏の益々のご活躍を期待しています。

電気・電子工学系

小崎正光

創立10周年の声が聴えてくるこのごろですが、電気・電子工学系も順調に発展しております。そこで近況などをざっとおしらせしましょう。

電気システム大講座の村山先生が昭和60年3月をもって停年ご退官されました。創立間もない昭和54年4月から6年間にわたり学内外でご活躍いただきました。現在は東京に戻られて東洋大学工学部で引き続き教鞭を執っておられます。先生方の在外研究も盛んで長尾先生(西ドイツ)、水野先生(アメリカ)、榊原先生(オーストラリア)に続いて、現在、太田先生がスイスのジュネーブ大学、東山先生がニューヨーク州ポツダムのクラークソン大学に行っておられます。

電気・電子工学系に関係の深い建物も着々と整備されて、風力・太陽光利用の研究のための自然エネルギー実験棟やヘリウム液化機を備えた極低温実験棟が昭和58年に完成しております。また、放射線関係の研究を行う放射線利用実験棟も昭和60年3月に完成しました。

各先生方も東奔西走多忙なご活躍ぶりですし、後輩も恵まれた環境の中で伸び伸びと勉学に余暇活動に励んで、将来、技術革新の最前線に向うべく充電しています。皆さんも機会を見つけて母校を訪ねて来て下さい。

情報工学系

田所嘉昭

卒業生の皆様お元気ですか。卒業式のコメンメントには“はじまり”という意味があるそうで、皆様の中には、まさに活動を初めた人もいるし、なかパッパと張り切っている人もおられることでしょう。

現在の4系の教職員の構成は次のようです。計算機大講座[教授:楠 菊信(系長補佐)、茨木俊秀、大岩 元、助教授:飯田三郎、中川聖一、講師:今井正治]、情報処理大講座[教授:河竹好一、北橋忠宏、助教授:橋口攻三郎、臼井支朗、斉藤制海、辰巳昭治、助手:平田富夫、村瀬一之、教務職員:平井 誠]、情報システム大講座[秋丸春夫(系長)、宮崎保光、阿部健一、助教授:田中正興、田所嘉昭、助手:山家光男、高橋治久、山田 晃]。

ホットニュースとしては、60年4月に大岩教授の誕生、計算機にいたる山下雅央助手が広島大学へ助教授として栄転されました。また、59年4月に計算機にいた郡司隆男助手が大阪大学へ助教授に、鈴木秀智教務職員が名古屋大学の助手に栄転されました。また、アイオワ大(アメリカ)から村瀬一之助手が、6月には東北大から阿部健一教授が赴任されました。中川助教授は、アメリカ(カーネギメロン大学)、平田助手はイギリス(ウォーウィック大学)へ長期出張中、田所助教授も7月からアメリカ(テキサス大学)へ長期出張予定です。今井講師は59年7月からアメリカ(サウスキャロライナ大学)へ出張中のところ今年の5月に帰国してきました。

4系の先生方は、元気に忙しく働いていますので御安心下さい。新しく情報通信実験棟もでき研究も一段と進歩するはずです。どうぞ豊橋で途中下車して、母校の技科大を訪れ、そちらの近況などをお聞かせ下さい。(6月4日、田所記)

物質工学系

ここ1年間くらいの間における第5工学系での様子を記します。1) 無機講座の小寺嘉秀先生が定年で御退官され、助教授の上野晃史先生が昇格しました。2) 有機講座の西山久雄先生が助教授に昇格しました。3) 二年間、アメリカ合衆国に出張されていた逆井基次先生が、本年九月に帰国の予定です。4) 竹市力先生が昨年九月アメリカ合衆国に一年間の予定で出張されました。5) 5系内ソフトボール大会で上野研が優勝しましたが、これで小寺研時代から数えて三連覇となりました。

本年十一月には、中部化学会連合会大会が本大学で開催されることとなり、佐々木副学長や神野清勝先生が中心となって、その準備を急いでおります。

以上ですが、化学業界の景気の回復とともに、5系への求人件数も増加しております。本年は浅田栄一先生が就職担当教授として御多忙な毎日を送っておられますが、先輩である皆様のもとにも、5系出身の後輩が就職していくかもしれません。豊橋技科大同窓生として、宣しく御指導して下さい。

建設工学系

小林陽太郎

昭和59年度中の最大のニュースは、横尾義貫先生が今年3月に停年で退官されたこととあります。先生は昭和52年8月から、初代副学長として榊米一郎学長を助け、創設期最も困難な時に御苦勞をなされ、図書館長・第6工学系長などをつとめました。

5月18日に横尾先生御退官記念パーティを開催した所、本学内外の先生方を始め卒業生合せて150人余りの方々がお集り下され、盛大裏に先生に感謝を献げ、教官論文集などを贈呈することができました。

学系の先生としては、昨年度日高健一郎先生が筑波大学芸術学群へ、堀越哲美先生が大阪市立大学・生活科学部へ転出され、四倉信弘教授(米国籍日本人・水工学)が2月に、由井洋三先生(土質工学)が4月に、また今年度4月から澤地孝男先生(建築環境工学)と小川保先生(建築史)が夫々着任されました。一方紺野昭先生と三宅醇先生が昨年度に手術のため御入院でしたが、お二人とも元気におなりになりました。同窓会員各位の御健闘を祈念致します。(系顧問)

60年6月まで

がんばっています

同窓生各地のたより

「まずは近況報告なり」

昭和59年 エネルギー工学専攻修了
梅舎雅彦

毎日、自分の椅子から見える風景は、各種船舶が断え間なく通る関門海峡である。すぐ近くには巖流島、やや遠方には関門橋が見え、その橋の近くでは海峡の潮流状態を船に知らせる大きな電光文字が点滅している。ここは三菱重工下関造船所である。

東京丸の内本社で入社式、本社教育を終え、下関という地に立った時は、さすがにいなかだと感じた



が、山口県は多くの歴代総理大臣や有名人が世に出たため、多くの名所、古い町並そして整備された道路があり、生活環境はますますだと思ふ。

当社に入社した動機は、自分の学んだ事を生かしたい、どうせなら大きな原動機の仕事を手掛けたいためであった。しかし、配属は当所になり、船装設計課外艀班、つまり船の外部艀装品の設計者に今自分なろうとしている。今や造船界は不況下にあり、船価の下落、韓国の追い上げなどでいっそう苦しい状態にある。また、造船は他の機械メーカーと異なり、人海戦術に大きく依存し、ロボットや自動機械を導入し難い部門である。我下関造船所は、海底ケーブル敷設船、小中特殊貨物船など附加価値の高い船で不況を乗り切ろうとしているが、大企業であるが故、陳腐化している所も多く、我々新人が成すべき仕事は盛り沢山にあると考える。

今、我々新入社員は一年間の見習教育期間にあり、来年三月には論文提出・発表が義務付けられている。現在まで消防学校で規律訓練を受けたり、一ヶ月間の現場実習などをした。消防学校での長さ15m高さ10mの綱渡り、現場実習での各作業を通じての造船工作の把握など数多くの貴重な体験をした。

船は、車などと同様交通機関としてのいろいろな規則があり、設計もそれに準じてなされなければならない。船を全く知らない自分がどこまでやれるかかなりの不安材料があるが、これら知識より自分の問題解決の姿勢が最も重要だと考える。

長い人生を通じて、自分は心の広い人間になりたいと願っているが、毎日、関門海峡の向こうに続く広大な海を想像しては、人間とはいかに小さいかを気づかされる今日この頃である。

私の近況報告

昭和59年 生産システム工学専攻修了

臼井祥枝

朝もやにつつまれた雲雀ヶ丘を、確かめるようにして見納めた日から、早くも3ヶ月が過ぎようとしています。私は、この4月にキャノン(株)に入社し、現在、3ヶ月間にわたる新入社員教育の一環として、福島で工場実習を行なっています。

福島工場は、吾妻連峰と安達太良連峰の裾野に位置し、恵まれた自然環境の下で、カメラの生産を行なっています。私は、実習中、カメラ部品の製造に

携わっていますが、その作業スピードにはなかなかついていけず、悪戦苦闘、一日が緊張の連続です。私より先に工場実習を終えた新入社員は、過度の緊張から体調をくずしてしまい、途中から配置変更になったぐらいです。このように、忙しい毎日を送っていますが、休日は大いに羽根を伸ばしています。工場近くには磐梯朝日国立公園も控えていますので、休日の山登りやドライブで気分転換を図り、翌週からの仕事に、新鮮な気持ちで取りかかれるようにしています。

研修は6月末で終わり、7月からは正式配属となりますが、そのための配属面接が6月上旬に行なわれました。この面接において、本人の希望する職種や勤務地などを会社側に申告しますが、会社側にとっては、人気皆無の地方配属に新入社員を誘う唯一の機会となるわけです。後で先輩から聞いた話ですが、私みたいに「人生いたる所に、青山あり！」などとカッコイイ言葉を残して面接室から消えてしまうと、会社側は「待ってました！」とばかりに、地方配属にしてしまうそうです。7月2日の配属発表で青ざめた顔をしている自分の姿が、目に浮かびます。

入社当初の緊張感も、今ではすっかり影をひそめ、社会人という身分にもかなり慣れてきました。一日の勤務を終え、すっかり暗くなったバス停で送迎バスを待つ間、ぐったりと疲れた体をほぐすようにして、天を仰ぐ。西空の夕やみに消えようとしている、吾妻連峰の美しいシルエットを眺めていると、幾分か感傷的な気持ちに陥ってしまいます。「あの空の下で、みんな頑張っているんだろうなーっ！」と級友を懐かしみ、「自分も頑張らなければ!!」と考える今日この頃です。

(59.6.記)

意識変化

マツダ株式会社

昭和59年 生産システム工学専攻修了

西森康夫

皆さん、こんにちは。早いもので大学を離れて2ヶ月が過ぎ、広島土地、会社にも慣れて元気に通勤しております。

今は、トランスミッションケースなどを作る軽合金課第3ダイキャスト係で、暑さと戦いながら体験実習しております。鑄造という作業に接するのは初めてですが、それ故に興味深いところです。ただ

非常に体力のいるところで、退社して寮に戻ると部屋で大の字になってしまうのが常です。自分では、大学時代に低層実験棟で体を鍛えていたつもりでしたが、その比ではないようです。

4月中は、新入社員教育研修で、会社のしくみや社員としての心構えなど、ハードスケジュールで詰め込み教育されました。不思議なもので、僅か1ヶ月の期間に学生時代には意識しなかった事が、この研修で少しづつですが芽生えているように思います。今、現場実習をやっているわけですが、安全作業に関してはひしひしとその重要性を感じています。このやり方は危険ではないだろうか、とか、危険な箇所はないだろうか、など考えるようになりました。さらに、コスト、品質についても同様です。大学時代に、先生、技官の方から、時々、話しは聞かされていましたが、なるほどその通りだ、と思っても、実際に、意識して実験や研究に応用したことはありませんでした。

さらに、健康についても意識するようになりました。まだまだ24才、若いつもりですから、取り分け体力づくりなどは実際にやっていませんが、規則正しい食事、生活には気を配っているつもりです。サラリーマンは体が資本と言いますが、ウソではないようです。給料をもらって感じる事なのです。

大学時代には、考えてみなかった事ですが、このような意識の変化に、社会人になったんだと感じています。配属は6月になりますが、これからが力を試される時だと思えます。我社は、5月1日にマツダ株式会社(旧東洋工業)と、社名変更し、全社員新たな飛躍をめざして活気づいています。自分も負けてはいられません。頑張ります。

(59.5.記)

この半年

日立製作所 高崎工場 小諸分工場
昭和59年 電気・電子工学専攻修了
楠 浩典

早いもので、豊橋を離れ半年余りが過ぎ去りました。私は、4月に日立製作所に入社しました。現在は、私の故郷である長野の日立製作所小諸工場に勤務しています。

4年、入社式と新入社員教育を茨城県日立市にて2週間ほど行ないました。教育は、会社幹部による訓話、講話、そして茨城地区の工場見学等でした。

椅子に坐っている時間が多く意外に疲れたことが思い出されます。待ちに待った配属発表では、なぜか高崎工場ということになりました。

高崎工場は、MOS・IC、EP-ROM、光素子などの半導体製品を生産しています。高崎では、8月上旬まで製造ラインでの実習と週1日の教育の日々でした。休日には、ラインの人達とスポーツをしたり、酒を飲みに行ったり楽しく過ごすことができました。

夏休み明けの8月中旬に工場内での正式配属があり、高崎工場の分工場である小諸工場の光素子製造部門に決まりました。光素子としては、半導体レーザー、発光ダイオードそして受光素子を生産しています。私は、その内で半導体レーザーの担当となり、特性改善や不良解析の業務に従事しています。レーザーは、学生時代の講義では多少学んだことはあるものの、一から勉強していかなければなりません。わからないことはその場ですぐ質問し、一つ一つ理解していく様にしています。仕事は、ありがたいことに沢山あり、夜10:00頃まで残業の毎日です。

以上が、この半年間の状況です。身体に気をつけて生活をし、早く一人前の仕事ができる様になりたいと思っています。

(59.9.記)

この一年を 振りかえって

松下電子 京都研究所
昭和59年 電気・電子工学専攻修了
米田 健司

大学を離れて早くも一年が経ちました。私は59年4月に入社して以来、約3ヶ月間の集合教育、実習を終えた後、2ヶ月間販売実習を行ない8月に正式に配属が決定しました。配属先は3年前に実務訓練で2ヶ月間お世話になった半導体R&Dセンターのバイポーラプロセス先行開発部でした。私は大学時代にMOSプロセスをやっていたのでMOSを希望したところ部長は快くCMOSプロジェクトの一つを任せて下さり、大学時代の経験と蓄積をフルに活かしていこうと決意しました。しかし配属先はもともと研究分野が異なっているため配属されて3日目から6ヶ月間中央研究所へ出張するよう申し渡しがあり、中央研究所でCMOSについて勉強させてもらいました。中央研究所までは寮から遠く、朝は毎日5時に起床して、冬などはまだ周囲が暗

い中を通勤していました。その後、今年の2月からは開発した品種の試作を行なうために、何と新潟県の新井工場に出張が決定しました。新井は冬の間は積雪が5m以上ありおどろかされましたが、近くに妙高、黒姫などのスキー場があり、ついスキーをやるにはもってこいだと考えてしまいました。新井では一日の仕事で3交替のオペレーター全員と顔をあわすほど遅くまで仕事をするのもしばしばで一日が終わるとぐったり疲れているという毎日でした。しかも毎週一回は大阪に帰るため週に2回は夜行列車の車中泊というケースがずっと続いています。今では新井と大阪の行き来にもなれてきてそう苦痛にも感じなくなってきました。6月には新井工場での試作も終わり、7月からは京都駅前に新しく建設された京都研究所へ移り超々LSIの研究開発を行なうことになっています。

この一年間、中央研究所と新井工場という研究所と最前線の現場を直接体験することができたのは非常に幸運でもあり有意義であったと感じています。これらの経験を踏まえてこれから京都研究所で次世代の半導体を開発していこうと決意を新たにしている今日このごろです。

以上がこの一年の近況報告ですが59年卒業の同期のみなさんもそれぞれの会社、部署で頑張っていると思いますし、これからもさらに豊技大の名前・実力を高めていくよう頑張っていく次第です。

(60.5.記)

「世界に広げよう… 豊橋技科大の、ワッ!!」

株式会社 東 芝

昭和59年 情報工学専攻修了

志 水 文 彦

就職して早くも一年が過ぎ、自分の職場にも新入社員が配属されてくる。今年私の後輩として配属になったのは、東大、東北大の修士である。正直言って彼等を前にし、これから先より一層頑張らなければと気持ちを一新しているところであるが、何分にも考えの甘い私故、すぐまた「長い会社生活だから焦らずマイペースでいこう」などと考え直したりするであろう。さて、嬉しいことに私の机のすぐ傍に技科大の後輩が配属された。しかも彼を学生時代からよく知っているのである。学生時代に知らなくとも大学の後輩が傍に来るのは嬉しいし、何となく頼

もしいものである。ところで私は研究所で仕事をしているのであるが、昨年のある日、自分の仕事関係で付き合いのある会社の人に、その研究所にいる友人の名前を聞かされ胸を熱くした。また学会発表に行った時も多く知人の名前を見、実際に会えて近況も話し合えた。因に私は三期生であり卒業生もまだ少なく、技科大の社会的な評価もこれからであろう。しかし自分のまわりには、このような頼もしい先輩、同輩、後輩が増えつつある。今私は、学生総数千名あまりの小さな豊橋技術科学大学の力強さを感じているのである。日本中いや世界中にいる先輩、同輩、後輩諸氏、これからもどうぞよろしく。「世界に広げよう…豊橋技科大のワッ!!」なのである。(ただしあまり力まないように…) (60.5.記)

私の近況報告

日本合成ゴム(株) 東京研究所

昭和59年 物質工学専攻修了

松 田 秀 徳

早いもので卒業してから半年が過ぎ、もうすぐ新しい年を向かえようとしている。

四月に入社後、三ヶ月間は試雇期間ということで本社での研修、四日市工場での交替勤務実習と、生活環境がめまぐるしく変化し、『実社会で働くというのは大変なことなんだ。』とか、初月給をもらったときには『やっと自分も社会の一員になったんだなあ。』とか月並な感想を持ったものであるが、配属が東京研究所に決定して横浜に移ってからは、ちょっと変わった生活を送っている。

現在、私は会社の社宅に住んでいる。といっても別に結婚したわけではなく、独身寮が満員なので同期入社の人と二人で住んでいるのであるが、大学時代友人と二人でアパート暮らしをしていた私にとっては学生生活の延長みたいなもので、同室の人と仕事の話や化学について議論をしたり、ときには女の子のすることについて話しあったりする。また鍋を囲んで一杯やりながら互いの学生時代の話をして非常に快適な生活をしている。

一方、仕事に関しては、研究所勤務ともあり、ユーザーに対するフォローや技術サービスなど今まで経験したことのない種類の仕事もあるけれど、比較的自由に仕事ができる。機器等も大学以上に揃っているし(オット失礼!、)新しいテーマについて研究し、

よりよい製品をつくり出そうという意欲がひしひしと感じられ、自分もおのずから研究に対する向学心や責任を感じ、もっとがんばろうという気になる。生活同様、仕事に関しても恵まれた環境にありこの仕事を与えてくれた会社に感謝している毎日である。(ちょっとオーバーかな?)

勿論、実際には週一度のゼミや週報・月報など大学以上にシビアなものが要求されるし、ユーザーに対する仕事ではミスは許れないから苦勞している面があることも事実である。しかしながらこのような苦勞や緊張感をもって仕事をすれば、よりよい仕事ができるようになると思うし、またこうして一つのことをやり終えた後の歓びは何事にも変えられないものがあるかと思っている。

うまく行かない反応を恨み、残業の多さにぐちをこぼしながらも、充実した日々を過ごしている今日この頃である。(59.11.記)

ジャヤさんを偲んで

昭和58年 電気・電子工学専攻修了

西澤 一

「ジャヤさんが亡くなったことを御存知ですか。」久し振りに訪れた母校で聞いた一言が、奇妙に響きました。Syamsuddin Djaja さんはインドネシアからの留学生で、昭和58年電気・電子工学専攻修了後神戸大学大学院博士課程に進み、更に日本での研究生活を送られていました。技科大においては、小崎教授の指導下で我々と共に学び、恒例のコンパでは、国籍、宗教、世代を超えて歓談し、ときどきはお国の歌の一節を口づさんで下さったものです。

今思えば、昨秋、神戸の中華街で再会したのが、私には最後のジャヤさんでした。事前に連絡すべきところを、ものぐさからハガキ一通も出さずに神戸の街に来てしまいました。ポートアイランドに渡ればお会いできると分っていながら、行きそびれ、とうとう名古屋に帰る時間になってしまい、駅に向かって歩いていると、偶然、買物に出ているジャヤさんにバッタリ出会ったのです。短い時間でしたが、互いに卒業後の生活や家族のこと、そして自分達の将来のことを語り合い再会を期して別れました。

年賀状が届かない理由が分った今も、作り話のような気がしてなりません。帰省中に、南国の太陽の下で帰らぬ人となったジャヤさん、予定を繰り上げて帰国されたただけだと思っ

しょうか。

“超人”

土屋ますみ君を悼む

昭和59年 電気・電子工学専攻修了

山本 一郎

「大学の研究室から、土屋さんが亡くなった、と連絡があったよ。」

残業を終え玄関の戸を開けた私に、母が開口一番、こう告げました。

私は一瞬、自分の耳を疑いました。まさかあの土屋君が……。

9月15日、谷川岳を目ざした土屋君たち2人のパーティーは、天候の急変で登頂を断念し、下山を始めて間もなく滑落。帰らぬ人となってしまいました。

さっぱりとしたスポーツ刈り、グレーのジャージにサンダル履きの出立ちで、講義ではいつも教室の右前列でノートをとっていた土屋君。

研究室(低温電子工学)ではバナジウム-ルテニウム合金の電子物性を研究し、度々、徹夜の実験となりました。実験の合間には、砂糖をスプーンに3杯も入れた思っきり甘い紅茶を飲みながら山の写真を見せてくれました。

大学院を修了後、日本無線に就職して一年半、会社では衛星通信課に配属されこれからの活躍が期待されていた矢先の事故でした。

山の素晴らしさ、山の恐ろしさを人一倍知っていた彼が、その最愛の山で命を落とすなんて――

ただただ残念という他ありません。

土屋ますみ君の冥福を祈ります。

(60.10.記)

❖ 役員会現況報告 ❖

旧役員の任期満了に伴ない、役員会は本年3月10日より下記の新メンバーで活動しています。主力が3・4期生に移り、同窓会発足当時の事情に通ずるものも皆無となりました。経験不足でとまどうばかりですが、全力を尽して会務に当たりますので、皆様のご協力を宣しくお願い致します。

記

会 長：西 沢 一 (3系2期)

副会長：鈴木 伸 治 (6系3期)

佐藤 孝 志 (5系4期)

会 計：前 中 一 介 (4系3期)

野 村 得 之 (3系4期)

庶 務：細 井 博 史 (5系1期)

佐 々 浩 司 (1系3期)

編 集：山 本 一 郎 (3系3期)

生 田 浩 之 (2系4期)

会 員：鈴木 清 三 (5系3期)

安 藤 康 広 (6系4期)

安 藤 智 明 (6系4期)

監 事：西 野 達 也 (2系3期)

第7回役員会

1. 月 日 昭和59年11月11日(日)
2. 場 所 技科大D2-705
3. 出席者 7名 鈴木寛、古内、佐々、山本、中田、鈴木清、鈴木伸
4. 議 事 (1) 同窓会報第3号の原稿(名簿、寄稿文)メ切は11月30日とする。発送は昭和60年1月下旬とする。名簿把握のため各系役員に往復葉書を支給。
(2) 技科学祭へ寄付2万円を支出する。
(3) 役員会出席者に対して、次回より交通費(市内500円、市外1,000円)を支給する。

同窓会役員名簿作成に関する打合せ会

1. 月 日 昭和60年1月22日(火) すしくら
2. 場 所 技科大
3. 出席者 7名 小林教授、寺澤教授、大岩教授、柴田学生課長、鈴木寛、古内、鈴木伸
4. 議 事 会員名簿作成に対する大学側の協力について。

❖ 会 務 報 告 ❖

第6回役員会

1. 月 日 昭和59年3月11日(日)
2. 場 所 技科大C棟4階会議室
3. 出席者 鈴木寛、鈴木秀、八木孝、河本、柳田、古内、佐々、西野、山本、前中、細井、鈴木伸 12名
4. 議 事 会長、副会長を除く第1期役員9名の任期満了にともなう、新役員役割分担と事務引継ぎ。

会報発行準備打合せ

1. 月 日 昭和59年7月8日
2. 場 所 技科大D2-705
3. 議 事 会報発行について日程検討

第8回役員会

1. 日 時 昭和60年1月27日(日)
2. 場 所 技科大D2-705
3. 出席者 9名 小林教授、鈴木寛、古内、西澤、鈴木伸、前中、佐々、鈴木清、山本
4. 議 事 (1) 同窓会報第3号は2期生名簿不備のため発行延期。
(2) 各系に同窓会顧問教官を設け、会員名簿補填に協力下さるよう大学側に依頼する。
(3) 大学創立10周年(昭和62年10月)に記念行事として同窓会員、教職員、在学生(留学生を含む)の名簿を発行する。

第 9 回役員会

1. 日 時 昭和 60 年 3 月 10 日 (日)
2. 場 所 技科大 D2-705
3. 出席者 11 名 鈴木寛, 西澤, 山本, 鈴木伸, 前中, 佐々, 生田, 野村, 佐藤, 安藤智, 安藤康
4. 議 事 (1) 新役員の選出(上記名簿参照)
(2) 同窓会報第 3 号を今秋発行する。2 期, 3 期生の名簿を掲載する。名簿の空白部補填は, 同窓会顧問教官に協力を求める。

同窓会顧問教官との打合せ会

1. 月 日 昭和 60 年 3 月 10 日 (日)
2. 場 所 技科大 D2-713
3. 出席者 役 員 11 名 (同上)
大学側 7 名 小林教授, 寺澤教授, 大岩教授, 上野助教授, 田所助教授, 森永助教授, 北村講師
4. 議 事 (1) 同窓会顧問教官は下記の通りである。
1 系…北村健三講師 2 系…森永正彦助教授
3 系…小崎正光教授 4 系…田所嘉昭助教授
5 系…上野晃史助教授 (60 年度 亀頭助教授)
6 系…小林陽太郎教授 7 系…安田好文助教授
(2) 同窓会から名簿空白部補填の協力を依頼し, 了承された。
(3) 顧問教官側より, 同窓会名簿のワープロ入力化の提案があり, 次回役員会で検討することとした。

第 10 回役員会

1. 月 日 昭和 60 年 4 月 21 日 (日)
2. 場 所 技科大 D2-705
3. 出席者 8 名 西澤, 山本, 鈴木伸, 佐々, 野村, 佐藤, 安藤智, 安藤康
4. 議 事 (1) 昭和 60 年度予算案の決定
(2) 名簿のワープロ入力を導入する。
(3) 会員の現状調査のため, 会報 3 号に会員カードを折り込む。
(4) 役員会定例会を年 3 回 (3, 7, 10 月) とし, 役員費枠を設ける。
(5) 10 周年記念として総会, 懇親会, 名簿発行を行なう。

第 11 回役員会

1. 月 日 昭和 60 年 7 月 14 日 (日)
2. 場 所 技科大 D2-705
3. 出席者 6 名 西澤, 鈴木清, 山本, 前中, 佐藤, 安藤智
4. 議 事 会報 3 号の編集作業を分担して行なう。
名簿関係…名古屋地区
本文関係…豊橋地区

❖ 会 計 報 告 ❖

昭和 58 年度豊橋技術科学大学同窓会決算報告

(昭和 58 年 4 月～昭和 59 年 3 月)

収 入	前年度よりの繰越し	2,254,717
	会費 261 名	1,305,000
	利息	24,534
	計	3,584,251
支 出	会報編集印刷発送	114,260
	入会案内手続諸掛	2,820
	通信費	11,335
	役員会経費	23,850
	その他	21,380
	計	173,645
差引残高		3,410,606

昭和 59 年度豊橋技術科学大学同窓会予算(案)

収 入	58 年度よりの繰越し金	3,410,606
	会費	1,300,000
	利息	30,000
	計	4,740,606
支 出	会報印刷発送	450,000
	技術大祭寄付金	20,000
	通信費	10,000
	事務費	10,000
	入会案内・手続	10,000
	予備費	10,000
	計	510,000
差引残高		4,230,606

昭和 59 年度豊橋技術科学大学同窓会決算

(昭和 59 年 4 月～昭和 60 年 3 月)

収 入	繰越し金	3,410,606
	会費	1,225,000
	利息 普通	5,509
	定期	68,488
	計	4,709,603
支 出	通信費	17,280
	文具	2,920
	技科大祭寄付	20,000
	封筒印刷費	15,000

役員交通費	12,000
雑費	5,000
計	72,200

差引残高 4,637,403

上額は 60 年度に繰越し

昭和 60 年度豊橋技術科学大学同窓会予算(案)

収 入	繰越し金	4,637,403
	会費	1,300,000
	利息	70,000
	計	6,007,403
支 出	会報印刷、発行	976,000
	技科大祭寄付金	20,000
	通信費	40,000
	役員会経費	60,000
	事務費	30,000
	会員名簿自動化	200,000
	予備費	10,000
	計	1,336,000
差引残高		4,671,403

編 集 後 記

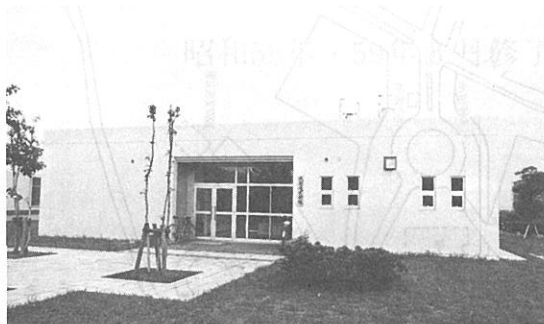
同窓会会報第 3 号をお届けします。予定していた発行期日より遅れること 1 年、寄稿文を寄せていただいた方々はじめ、会員の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。お詫び申し上げます。

ところで、本号の航空写真気についていただけましたか。久し振りの技科大の学舎をなつかしく思われた諸兄も多いのではないかと思います。

キャンパスは雲雀のさえずりはそのままで、緑の中に新しい実験施設が建てられ、私たちが在学していた当時に比べ、一段と環境が整備されました。

豊橋近辺へ立ち寄られたときは、母校技科大まで是非足をのばしてみてください。

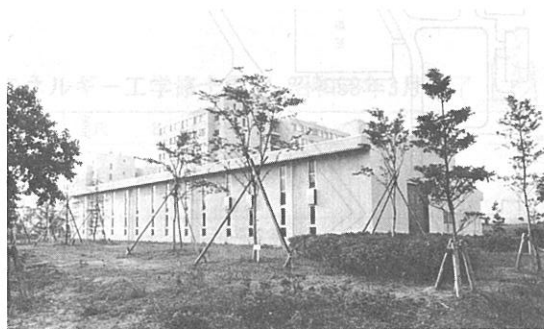
最近竣工した実験施設です。正門前にポストもできました。



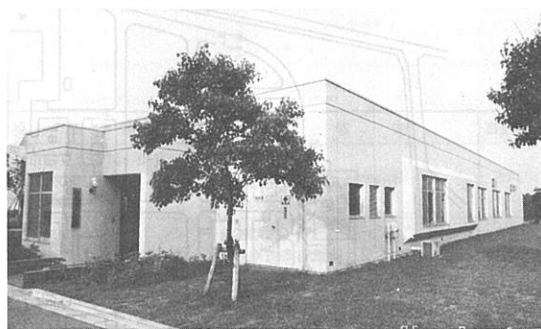
(1)放射線実験棟60年 4 月



(5)自然エネルギー実験棟58年 4 月



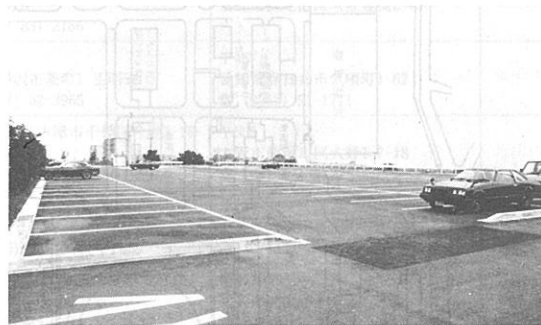
(2)実験実習工場59年 4 月



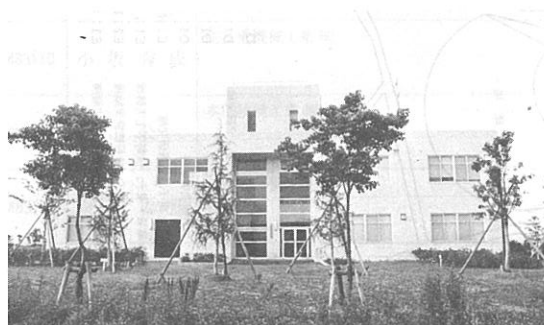
(6)極低温実験棟58年 4 月



(3)環境防災実験棟60年 4 月



(7)舗装整備された北駐車場

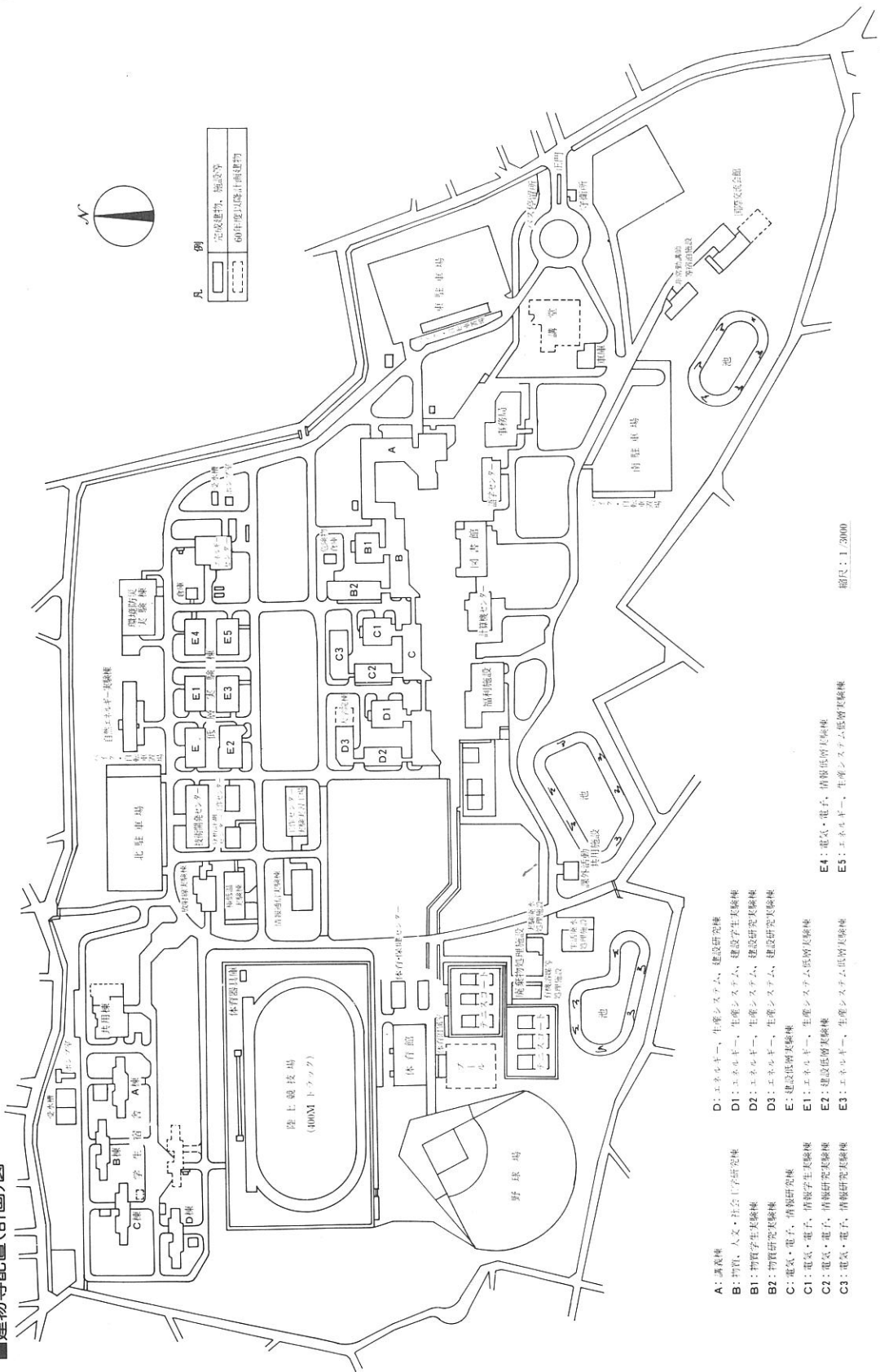


(4)情報通信実験棟60年 4 月



(8)正門前ポスト

■建物等配置(計画)図



- A: 講義棟
- B: 哲、人、文・社会工学研究棟
- B1: 物質学生実験棟
- B2: 物質研究実験棟
- C: 電気・電子、情報研究棟
- C1: 電気・電子、情報学生実験棟
- C2: 電気・電子、情報研究実験棟
- C3: 電気・電子、情報研究実験棟
- D: エネルギー、生産システム、建設研究棟
- D1: エネルギー、生産システム、建設学生実験棟
- D2: エネルギー、生産システム、建設研究実験棟
- D3: エネルギー、生産システム、建設研究実験棟
- E: 建設化学実験棟
- E1: エネルギー、生産システム制御実験棟
- E2: 電気・電子、情報制御実験棟
- E3: エネルギー、生産システム制御実験棟

縮尺: 1/2000

